

# 第35回 ことう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成30年11月8日(木)

# 参加者の名様へ

- 各テーブルに、名札を準備しました。  
『所属(事業所名)』『職種』『名前』をお書きください。
- 名札を同じテーブルの方からよく見える高さでつけてください。
- 
- お帰りの際は、受付にお戻してください。  
～**お互いの顔と名前を知り合って、**  
**さらに交流を深めましょう！**～

# 交流会

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
  - リハビリ職との連携について など
- ❁ グループ発表後は、自己紹介タイムです。

- 本日学んだことで最も印象に残ったことは何ですか？
- それはなぜですか？
- その学びを今後どのように活用したいですか？

- 今回の事例は比較的若い方で、うまくいった事例だったと思う。
- 連携がうまくいかなかないケースもあると思う。そのような事例も聞いてみたい。(かなり高齢の場合、家族の理解が得られない場合等)
- 今後様々な事例を出していくこと、うまくいかなかったケースも共有していけると良いと思う。

### 印象に残ったこと

- その人の生活をしっかり確認した上で、どこに焦点を当て目標を決めて支援していくかということ
- その方のモチベーションを保つことが難しいことが多い。そこを支えるのがいかに大切かを感じた。
- 今後、生活の中でのその人の課題を見据えた上で、病院でも支援ができると良いと思う。

- 互いの意見がはじめて聞くことが多かった。共通する部分が少ないことに気づいた。共通する部分が少ないと現場での関わりも少なくなるので、このような多職種が集まる場で交流することは大事になると感じた。
- 退院後の生活を捉えて利用者に関わるのが大事だと思った。
- 先々を見越した支援ができるとよい。
- 本人が願いを訴えられないケースも多職種が連携することでその人に必要な支援が提供できるのではないかと思った。
- 本人の意欲を引き出すために多職種連携が必要であると感じた。
- 本人のニーズが「参加」に向かっていることが印象に残った。
- リハビリはエンドレス。モチベーションをどのように保つか。
- 顔の見える関係ができるともっと患者様にいろいろな提案ができるのではないか。(多職種が関わる)

- 事例を聞いて、本人、家族が安心して過ごせる環境、専門職のかかわりの重要性。本人の想いが引き出せるかかわり、「自分の願いを言ってもいいんだ」と思えるかかわりが持てるとよいと感じた。
- このチームケアが他の利用者に関わる時にも活かされ、本人のモチベーションの維持、アップ、支援の広がりをもてるとよいと思った。
- 通所リハビリ以外での他職種の間わりを聞いて勉強になった。
- 病院では退院目標を設定しての支援が多いが、自宅での生活を考えた支援が必要なのだと感じた。
- 今回のケースは目標がはっきりしていて、目標達成のためチームケアがうまくできていたと思う。
- 目標が示せない方に対しての支援はどうしたらいいか。本人にとって何が大切なのかという視点をもってリハビリの専門職や多職種が関わるのが大切なのではないか。
- 生活歴を知ることも大切。

- 職場復帰の事例については、職場環境を見ることで本当に必要なものが分かった。本人さんとリハ職では視点が違う。本人から聞くことも大事だが、実際に見ることでより課題が明確に。視点の違いは良いことだと思う
- リハは日々の継続が必要。本人の状態に合わせ、リハ職が関わる時間以外でのリハビリも重要。
- 専門職だけではなく地域資源も含めての連携が必要である。
- どこまでが本人の希望で、どこまでのことを目指していけばいいのか、家族の意向もあり、正解がなく、目標設定は難しい。
- 機能回復だけではなく、食べることでの回復も大切。
- リハビリ一つとっても様々な考え方思いがあることがわかり、意見交換できてよかった。